

2021年3月13日

日本テレビは

アイヌ民族への差別的表現問題を直視し、アイヌ問題の理解を深められたい(談話)

全国地域人権運動総連合事務局長 新井直樹

3月12日、日本テレビ局系の情報番組「スッキリ」で、アイヌ民族に対する差別的表現「あ、犬」(アイヌとも表示)を放映、同日のニュース番組内でおわびがなされた。

問題の発言は、録画であった。動画配信サービス「Hulu(フールー)」の番組を紹介するコーナーで、アイヌ女性のドキュメンタリー「Future is MINE —アイヌ、私の声—」を紹介した後、芸人が「この作品とかけまして動物を見つけた時とどく。その心は、あ、犬」と謎かけをした。

「日本テレビからのお詫び」(<https://www.ntv.co.jp/pc/>)は以下の通り。

3月12日(金)放送の「スッキリ」の中で、アイヌ民族の女性をテーマにしたドキュメンタリー作品を紹介しました。それを受けての放送内容においてアイヌの方たちを傷つける不適切な表現がありました。日本テレビではアイヌの皆様、ならびに関係者の皆様に深くお詫び申し上げるとともに今後、再発防止に努めてまいります。

長年にわたり「あ、犬」は差別的表現として人々を苦しめてきた。登下校時に限らず、社会生活の場面でも浴びせられた言辞。自伝など様々な場面で語られてきた。番組はドキュメンタリー作品の視聴を呼びかけるものだっただけに、関わった人々の認識不足を糾したい。

「お詫び」というが、人権問題の解決に取り組む多くの国民や行政、教育などにも及ぶ問題と理解し、謝罪と反省をすべきである。先住民族であるアイヌ民族の権利擁護が描かれた映像作品なども近年おおく制作されている。これらを積極的にメディアがとりあげるなかで、関係スタッフや国民の理解が深まることを願うものである。(以上、日本テレビに送信した)

